

インターポート

兵庫教育文化研究所だより

No.189

2018年2月13日

発行所 兵庫教育文化研究所
〒650-0004

神戸市中央区中山手通 4-10-8

「お箏」を演奏してみよう！ 音楽教育部会 授業研究会

1月、音楽教育部会の授業研究会ならびに指導法研修会が、佐用町の中学校でおこなわれました。協力研究所員の中濱純子さん（大阪教育大学・邦楽演奏家）を講師に、佐用町小中学校音楽科・音楽研究委員会と共催での開催となりました。

授業研究会は、「和楽器 お箏に触れる」として、2時間でおこなわれました。

中濱さんから用語等についても教わりながら、弾き方を練習し始めた生徒たちの顔には、自分たちには縁遠いものであった「箏」に触れ、音を出しているという驚きや喜びが表れていました。2人組で交代しながら、熱心に練習する姿が見られました。



その後すぐに、「『たこたこあがれ』を演奏しよう」と課題が出されました。それも、楽譜を示すのではなく、実際の演奏を聴いて「音を探してみよう」と投げかけられ、練習が始まりました。生徒たちは、習った弾き方で一つひとつの絃を弾いて音を確認し、メロディがつながると嬉しそうに続けて弾いて、練習していました。

最初からすべて教えるのではなく、生徒たちに任せ、考えさせる時間を確保することで、より達成感を得られることを実感しました。

授業後には、佐用の中学校の先生方と一緒に、中濱さんから指導法の研修を受けました。中学校音楽で和楽器が必修となってから15年以上がたちますが、十分な研修や楽器等の整備がされているかという点、必ずしもそうではありません。夏の教育課程編成講座でも、音楽教育部会の実技研修は毎年多くの参加者がありますが、指導する教員が研修の機会をもとめていることの表れではないかと思えます。今回も参加者にとってよい機会となったのではないのでしょうか。

今後も、教職員が自らの力量を高める教育研究活動を続けながら、子どもたちの興味・関心を大切にし、達成感・成就感を得られるような授業づくりにとりくんでいきましょう。